

新年のご挨拶	1	目次
経済産業省		
環境省		
ELV機構代表理事		
ELV機構副代表理事挨拶	2	
経産省からのお知らせ	2	
Viva ECOBICI	2	
さてこれは？	2	
鉄スクラップ市況情報	3	
編集後記	3	

新年明けましておめでとうございませう

暗い話題の多かった2011年も終わり、いよいよ天に昇る龍の年の到来です。これにあやかり、発展の年になることを祈念してjaeraニュースレ



ター本年第一号をお届け致します。機構のメンバー全員が力を結集し、業界の発展、会員各社の繁栄に向けて頑張ります。(編集部一同)



経済産業省 自動車課
自動車リサイクル室
室長 波留 静哉 様

平成24年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。昨年は、東日本大震災、タイの洪水被害などの自然災害に加え、超円高や欧州債務危機など日本経済にとって厳しい年でした。

経済産業省では、国内産業と雇用の確保の観点から立地補助金の創設、車体課税における税率の一部廃止、軽減、エコカー減税の継続・拡充、エコカー補助金の創設など、国内自動車市場の活性化に向けて全力で取り組んでいるところです。

自動車リサイクル業界も、東日本大震災を背景に、ELV発生台数の大幅な減少、鉄スクラップ市況の下落基調など、経営環境が大きく変化しました。皆様方におかれましては、環境に左右されない自立的なビジネスモデル構築等に向けて、現在の事業のあり方等につき考えさせられた年だったのではないのでしょうか。今後はこうした経営環境への対応のみならず、レアメタルなど資源確保の要素を含めながら、HV、EV等の次世代自動車の普及拡大にも的確な対応が重要な鍵となるものと考えられます。

本年も自動車リサイクルを巡っては、中長期的な展望を見据えた自動車リサイクルの高度化やリユース部品の需要喚起に向けた検討など、より良いスキームづくりを目指して、皆様との対話を続けながら一緒に考えていきたいと思っております。

皆様方にとってこの1年が希望に満ちた躍進の年となることを祈念しまして私の挨拶とさせていただきます。

□



環境省 廃棄物・リサイクル対策部
室長代行
高橋 一彰 様

平素より、自動車リサイクルの推進を通じた循環型社会の構築に御協力いただき、厚く御礼申し上げます。

昨年は、東日本大震災という大変痛ましい災害が発生しました。被災地では災害からの復旧・復興に向け御尽力されているところですが、一日も早い復旧・復興のためには被災自動車の処理も急務となっております。貴機構では震災直後から、日頃培われた自動車リサイクルの知見を生かし、被災自動車の撤去等についていち早く取組がされてきたところ、この場をお借りして改めて感謝申し上げます。私どもも、震災からの一日も早い復旧・復興に向け、原発事故に伴う放射性物質による汚染への対応なども含め、今後とも努力していく所存です。

環境省では今年度から、高度で経済合理性を持つ新たなリサイクル手法についての検討・実証を目的とした「自動車リサイクル連携高度化支援事業」を実施しています。本事業には、日本四（リ）サイクル機構の「小規模解体業者の連携によるレアメタルリサイクル」も採択されたところ、話題となっているレアメタルのみならず、銅や鉄に至るまで、ビジネスにつながるリサイクル高度化のあり方について、解体業界の皆さんにも御協力いただきながら、一緒に考えていきたいと思っております。

最後にになりましたが、本年の皆様方の御健康と御多幸をお祈りいたします。今年も、どうぞよろしくお祈りいたします。

□



一般社団法人
日本ELVリサイクル機構
代表理事 栗山 義孝

皆様、新たな年をお迎えになり如何お過ごしでしょうか。昨年は「未曾有の」という言葉が付されるような、大規模かつ悲惨な出来事が多発しました。特に、東北地方の大震災や津波、更には原発事故の発生により、多くの方々が被害を受けられ、年が明けたとはいえず、未だに苦しみに直面されておられる方々、親しい方を亡くされておられる方々、お見舞い申し上げます。

私たち、自動車リサイクル業者にとりまして、このところ本心に厳しい状況が続いております。しかしながら、そのような逆境に臨んだ時こそ、機構に連なる各地域団体、会員の皆様を力に合わせ、立ち向かうことが本場に必要であり、それによってグループとしての力が培われ、その存在意義が増すのではないかと思います。

昨年、私たちは、他の大勢の仲間たちと相携えて震災被災地での支援活動並びに義援金の募集に立ち上がりました。ご参加頂いた皆様の大変なご努力により想定を上回る成果を上げることができたと思っております。これが正に組織としての力が結集できた証と思っております。

また、昨年末より、企業連携による資源循環の促進に向けての活動が開始いたしました。これも機構、会員、プロジェクティブであり、是非とも、明日に繋がる良い結果がもたらされることを期待いたします。

最後にになりましたが、本年の皆様すべてにとり幸多き年になりますよう祈念して新年のご挨拶といたします。

□

副代表理事の年頭ご挨拶

副代表理事 伊丹 伊平

さあ、新しい年です。被災地にあつては復興に向けて、他の地に在つては自社の生き残りを掛けて、他者とはなく、自分自身との戦いの年です。私達を取り巻く環境の変化は大きくスピードも早い。使用済車発生への低減傾向と流通の変化、自動車産業の技術革新の加速化、次世代自動車HEV、PHV、EV、FCV市場の拡大、国内リユース部品市場の需給ギャップの拡大、車体構成素材の軽量化と新素材。円高等経済環境変化による輸出マーケットの縮小等々、具体的対策を要する課題は多い。しかし、私達、自動車リサイクル産業に所属する者にとつて、対策の基はリサイクル技術・分別・回収・保管・運搬の高度化と企業連携による付加価値の創造以外にはない。そのベースにしっかりと立って、課題克服挑戦へのスタートをきる新年です。そのためツール（情報）を収集し、会員の皆様に、提供し続けることが機構役員に課せられた任務と考えています。本年も、皆様のご協力を、よろしくお願い致します。□

副代表理事 榎本 擴

会員の皆さま、明けましておめでとうございます。昨今、我が国が近年にない災害に遭遇し、大変な困難に合いました。我々の業界も自動車製造工場、部品工場、納車工場、新車の納車遅れが発生、又、お客様の災害による購買力の減少等があり、近年にない廃車の減少になつた一年間だつたと思ひます。

本年は徐々に被災地の復興、タイの部品工場等の再開が進み、自動車産業が元に戻り、今までと同じサイクルに戻ること、切に望みたいです。我々は、

今後、国内自動車販売の低迷による使用済車の減少傾向が長期的に続き、業界内部での過当競争が激化する等大変な時期遭遇すると思われれます。そのような困難な時、我々として、外部に頼り、それが他業界であれ行政であれ、必要ある限り大いに発言することが大切だと思います。日本ELVリサイクル機構は、本年の総会にて組織、人事の変更が行われますが、行政の窓口であることを認識し、より良い組織にすべく皆様と一緒に考えていきたいと思います。最後に会員の事業発展と皆様のご健勝、ご多幸を祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。□

副代表理事 大橋 岳彦

新年あけましておめでとうございます。未曾有の災害に見舞われた2011年が過ぎ去りましたが、被災された皆様方には心からお見舞い申し上げますと共に、新しい年が少しでも希望の見える年となるようお祈り申し上げます。

私達解体業界にとつても昨年は、廃車発生数の大幅な減少となりました。年初には「使用済自動車別ガイドライン」が策定されたにも拘らず、引取業者による極低年式車のオークションへの出品は震災後、更に加速していく状況となつてしましました。本年も被爆車輛の処理問題、発煙筒の回収処理、次世代電池の事前回収物品指定、自動車メーカーのリサイクルへの取り組み等、様々な課題が待ち受けております。ELV機構会員の皆様のお力を借りしながら少しでも我々業界の明るい未来を構築できよう、役員一同努力致していく所存です。ますますのご協力をお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。□

経産省からのお知らせ

現在、リチウムイオン電池を搭載したハイブリッド自動車や電気自動車など、いわゆる次世代自動車の普及が進んでいます。リチウムイオン電池は、可燃性の電解液を使用しているため、取り外さずに車両を破砕した場合、破裂・発火の危険性があることから、行政では、破砕前にリチウムイオン電池を回収することを義務づけるための省令改正を準備しています。また、一〇年以前から使用されているニッケル・水素電池は、現在在る価で取引されるため、解体工程で回収されていますが、アルカリ性の電解液を使用しているため、破砕された際には安全性の懸念があるため、今回、リチウムイオン電池を併せて確実に回収を制度化する予定とのこと。

なお、経産省は、これら電池搭載車で既に市販されているものは、自動車メーカー等が電池の回収スキームを準備しているとのため、自動車メーカー等へ引き渡すよう求めており、回収したこれら電池類を加工した製造物の欠陥により他人の生命、身体、財産に被害を及ぼした場合、製造物責任法に基づく賠償責任が生じる可能性を示唆しています。□

さて、これは一体何でしょう？

見ている通り、お出掛け時にきちよいと肩にかけるサイドバッグですが、その材質は馴染みのあるシートベルトです。堅牢この上ない素材であり、グラデーションの利いたデザインも中々洒落な一品です。北海道の解体業者さんが、



Viva ECOBIKE!

メキシコの街角から

メキシコの首都メキシコシティの街角に、以前見かけなかつたものが設置された。自転車置き場である。そこにおかれているのは「ECOBIKE」（「エコビシ」と呼ぶ）という共同使用の自転車で、写真のとおり赤と白に彩られた、誰もが乗れるような至ってシンプルなもの。現在、メキシコシティの90か所に特別の駐輪場が設けられ、1万2000台がサービスに供されている。利用者が予め購入したカードを読み取り機にかざすとロックが外れ、自転車を使用可能となる。主な設置場所はビルが立ち並ぶビジネスセンターであり、現在約3万人が利用しているとのこと。利用料金は、プリペイドで年間300ペソ（現行レートで約1500円）。



このカードで、1日45分間使用することができる。自転車のものを紛失すると5千ペソ（約2万5千円）が請求され、カードの紛失は3百円ほどで再発行して再発行して。運営組織の予測によると、来年8月までに利用者が4万9千人に増え、車両数も3万8千台になる見込み。なお、現在市内に「メキシコ」の専用レーンが設置されており、今後数年間で更に「メキシコ」ほど追加される。□

（写真と文 今城高之）

◆輸出・国内ともに続落
◆高炉の鉄スクラップ購入量減少、
旧正月も大きく影響

東京製鉄は年始から18日までに鉄スクラップ購入価格を岡山・海上で2,500円、岡山・陸上と九州・海上で2,000円、九州・陸上で1,500円、宇都宮で1,000円、田原で1,000円、それぞれ値下げした。これに伴い、国内の電炉各社もほぼ同じ値下げ幅で追従した。

日本のスクラップに対しては、韓国から年始にH2・FOB32,500～33,000円の買いが見られたが、東京製鉄の連続値下げ、中国や韓国・台湾などが旧正月（月23日）を前に休暇態勢となりつつあることなどの要因から、1月第3週初めには1,000～1,500円下落した。関東湾岸の浜値も年始H2でFAS31,500円から30,000円割れに後退した。

国内では、新日鉄やJFEスチールなどの減産に伴う鉄スクラップ購入の抑制が重石となっている。本紙調べでは、昨年1～3月の高炉各社の鉄スクラップ月間購入平均は32万トンドットだったが、10～12月平均は二万トへと減少、さらに一月は9万トに急減した。系列電炉に鉄スクラップを融通する動きもあり、これが国内需給緩和に拍車をかけた形だ。

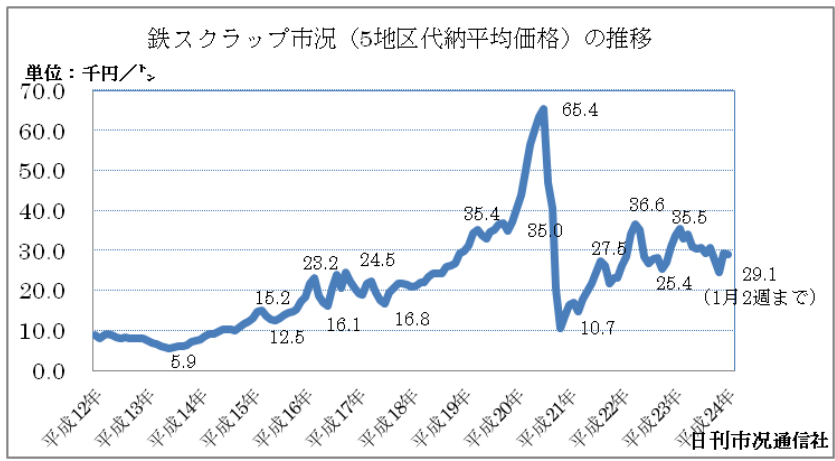
しかしその一方で、トルコ向けのEMS（28020）はCFR46ドル、米国コンポジットは9日付と17日付が2週連続で4325ドルとなるなど、欧米市況は高止まり状態にある。

◆関東地区 関東電炉筋の値下げ改定広がる 湾岸浜値も下落、H2が3万円割れ
関東電炉の値下げ改定が広がっている。東京製鉄が18日、全工場の鉄スクラップ購入価格を500円値下げしたことを受けて、他の電炉各社も値下げに動いた。各社の入荷が好調で足元も潤沢な在庫を抱えていることが下げを誘った。一連の値下げで、関東地区の7炉前実勢価格は30,500～32,000円中心、高値32,500～33,000円となった。また湾岸浜値も下落した。現在の7炉浜値は一部高値を残すものの、中心値は29,500～30,000円。

◆東海地区 名古屋メーカーは18日から一律500円下げ
名古屋メーカーは18日から購入価格を一律500円値下げした。改定後の7建値は大同特殊鋼25,500円、愛知製鋼21,900円、トニー工業29,000円、中部鋼鉄、共英製鋼名古屋の2社は27,500円となった。これを受けて、業者ヤードの仕切り値もさらに500円方の下げとなっている。東京製鉄・田原工場の特級は陸上・海上ともに31,000円。東海地区の7炉前実勢価格は30,000～31,000円中心。

◆関西地区 大阪、姫路地区とも鉄スクラップ相場の下落続く
関西地区の鉄スクラップ相場は下落が続いている。大阪地区の電炉は17日に大勢が500円方値下げしたことに続き、18日も再び一斉に値下げを実施したため、市況は底値の見えない展開が続いている。大阪地区の7炉前実勢価格は30,500～31,000円。姫路地区の電炉では18日から山陽特殊製鋼を除く6社が鉄スクラップ購入価格を500円引き下げた。姫路地区の7炉前実勢価格は30,500～31,000円。□

（※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、1月18日時点のもの）



1月18日の国内スクラップ炉前実勢価格

		H2	気配
関東	北関東	30,500 ~ 33,000	値下がり
	南関東	30,500 ~ 33,000	値下がり
名古屋		30,000 ~ 31,000	値下がり
関西	大阪	30,500 ~ 31,000	値下がり
	姫路	30,500 ~ 31,000	値下がり



☆☆編集後記☆☆

◆新たな年を迎えられ、皆様如何お過ごしでしょうか。昨年の東北震災によりご家族や親しい人々を亡くされた方々のことや、期待したほど進まない復興の足取りを思うと、「おめでとう！」と素直には言い難い新年でした。

◆昨年暮れに、山本五十六を主人公とした映画が封切られ評判になっています。史実に疎い編集子は早速インターネットで調べてみたところ、彼の評価が大きく分かれていることが分かりました。しかしながその語録を見て、編集子には彼が良き指導者であり、心やさしき武人であったらうと思われましました。曰く、「やってみせ、言ってきかせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ」、また曰く、「苦しいこともあるだろう。言い度いこともあるだろう。不満なこともあるだろう。腹の立つこともあるだろう。泣き度いこともあるだろう。これらをじっとこらえてゆくの男の修行である。」今の世の中でも通用する名言ではないでしょうか。

◆本号より趣を変え、四段縦書きの体裁としてみた。読者からのご意見で、プリントアウトして読むには従来の横書きで支障ないが、モニター画面で読む際、カーソルを頻りに動かすことになり読み辛い。なるほどということ、トライアルとして本号の体裁を変えてみたが、読者各位からのご意見を期待する。

◆今年がどんな年になるか、要は自分次第ということか。お互い頑張りましょう！ □（編集子）